

# 発掘 宇治二子山古墳



二子山古墳は、山間部から平野に流れ出る宇治川の右岸の丘陵頂部にある 2 基の古墳です。

二子山古墳がつけられた古墳時代は日本列島の国家形成期にあたります。各地で王の墓として巨大な前方後円墳を築造し、その権力を誇示した時代です。宇治では古墳時代の前期に三室戸の丘陵頂部に観音山古墳、中期に二子山古墳や五ヶ庄の瓦塚古墳といった30～50m規模の円墳が築かれ、後期には五ヶ庄に墳丘の長さが100mをこえる大型の前方後円墳である二子塚古墳が築かれます。二子山古墳は昭和 43(1978)年に土砂採取工事が発端となり、発掘調査が行われました。



調査では北墳が5世紀中頃につくられた直径40mの円墳で、南墳が5世紀後半につくられた35m程の古墳であることがわかりました。埋葬施設は北墳で3基、南墳で1基が見つかりました。盗掘されていましたが多種多様な副葬品が出土しました。

# 『発掘 宇治 '17』

# 1968年の発掘調査

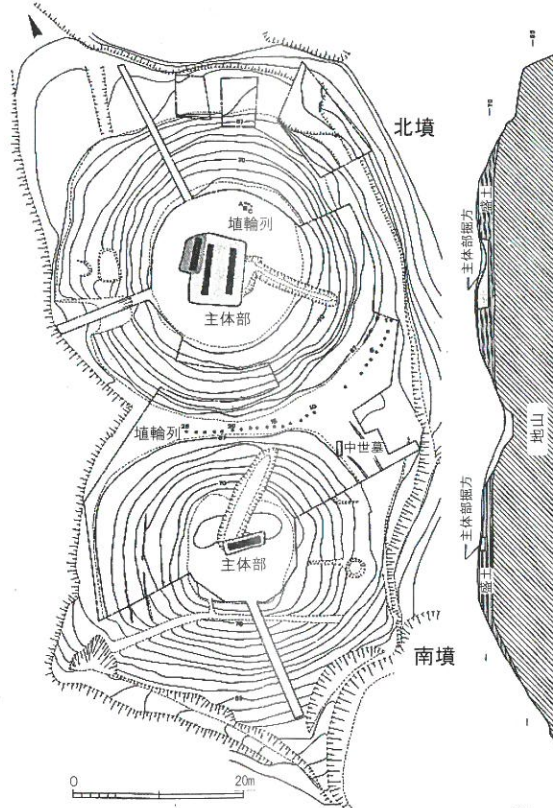
昭和43年に土砂採取工事が発端となり、発掘調査が行われました。調査では北墳が5世紀中頃に造られた直径40mの葦石・埴輪列を備えた円墳で、南墳が5世紀後半に造られた35m程度の古墳であることを確認しました。



北墳の埋葬施設



宇治古墳群 位置図



三子山古墳 発掘調査位置図

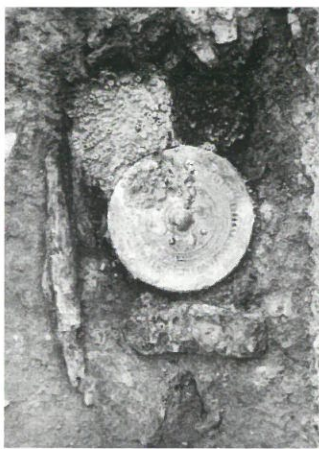
埋葬施設の調査も行われました。

北墳では墳丘の中央に木棺が埋められており、その西側と東側に木棺を粘土で覆った粘土槨が1基ずつ見つかりました。南墳では1基の木棺が見つっています。

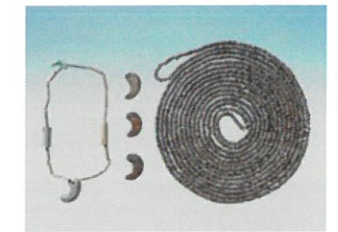
北墳の埋葬施設は盗掘を受けていましたが、青銅鏡・玉類・豎櫛をはじめ、甲冑や刀剣、鏃、農工具類が出土し、南墳からは青銅鏡・玉類・甲冑と多量の武器や馬具、革製の盾といった豪華な副葬品が出土しました。



南墳玉類出土状況



南墳 四葉文鏡白玉箱



南墳玉類



南墳 四葉文鏡



南墳 鉄斧・刀子



南墳 甲冑出土状況



南墳 鉄鏃



南墳 直刀・剣・矛



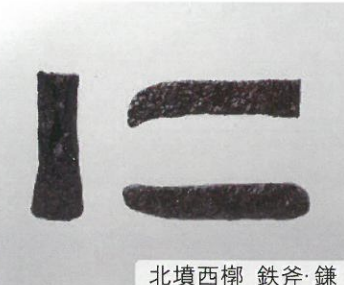
北墳西槨 神獣鏡



北墳西槨 直刀・剣



北墳西槨 玉類



北墳西槨 鉄斧・鏃



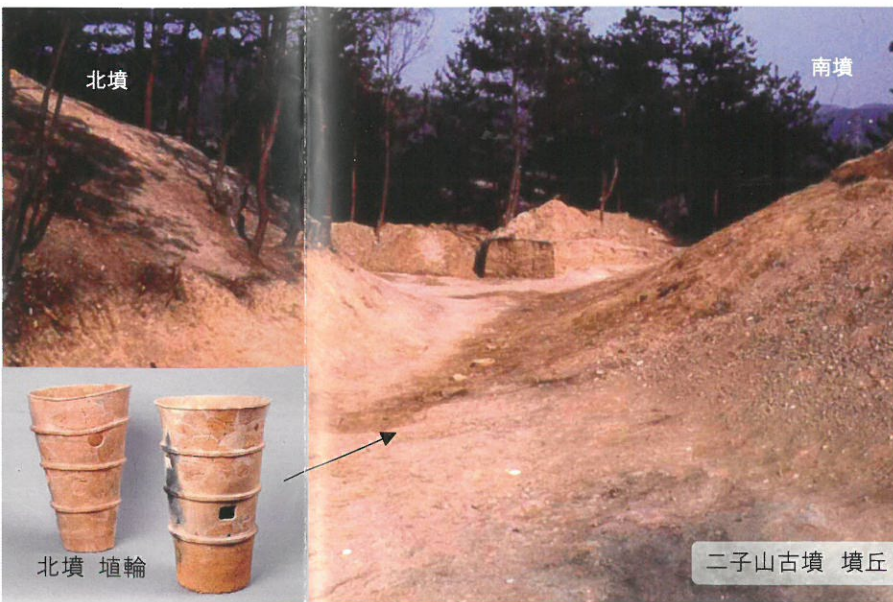
北墳西槨 鉄鏃



北墳西槨



北墳東槨



北墳 埴輪

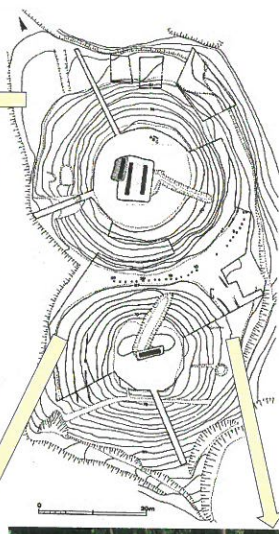
三子山古墳 墳丘



南墳 甲冑と三環鈴

## 2018年の発掘調査

北墳の北側で、造り出し等の祭祀施設の有無を確認するため発掘調査を行いました。明確な祭祀の痕跡を確認することができませんでした。また南墳では墳丘の形と規模を確認するための発掘調査を行い直径30～34m程度の円墳であることが分かりました。



北墳(北から)



南墳(北西から)



南墳(北東から)

## 二子山古墳 と 古墳時代の宇治



宇治市街遺跡

朝鮮半島の土器が出土した流路跡

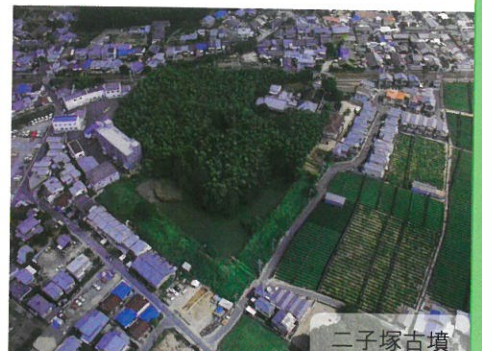


朝鮮半島の土器

二子山古墳は菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)の墓として語られることもあり。菟道稚郎子は木幡出身の母をもつ応神天皇の皇子で、皇位継承の有力候補として『日本書紀』に描かれます。中宇治では古墳時代中期に最先端の技術を伝えた渡来人の残した朝鮮半島の土器が出土し、二子山古墳の後には五ヶ庄に瓦塚古墳、二子塚古墳が築かれるなど、国家形成期における宇治の重要性が窺えます。



瓦塚古墳



二子塚古墳

## 文化財の保存

二子山古墳の発掘調査は、土砂採取が契機となって始まりました。調査の結果、我が国の国家形成期を知る上で重要な古墳であることが分かり、土砂採取は中止されました。出土品は京都府の有形文化財に指定されています。文化財は歴史、文化の理解のために欠くことのできないものであり、文化の向上発展の基礎になるものです。文化財を守り伝えていくことが大切です。

